

定 款

日東富士製粉株式会社

# 日東富士製粉株式会社定款

## 第1章 総 則

### (商号)

第1条 当社は、日東富士製粉株式会社と称し、英文ではNITTO FUJI FLOUR MILLING CO., LTD. と表示する。

### (目的)

第2条 当社は、次の事業を営むことを目的とする。

1. 農産物の売買
2. 穀粉の製造加工及び販売
3. 農産物を原料とする物品の製造加工及び販売
4. 食品及び食品添加物の製造加工及び売買
5. 飼料及び餌料の製造加工及び販売
6. 動産及び不動産の賃貸並びに管理
7. 文化、スポーツ、娯楽施設の経営
8. 日用品雑貨の販売及び飲食、宿泊、駐車、燃料供給に関する事業
9. 倉庫業、一般区域貨物自動車運送事業、自動車運送取扱事業及び港湾運送業
10. 穀粉の製造及びその二次加工の機械設備の設計、機械器具設置工事、管工事及び技術指導並びに関連加工機械の売買に関する事業
11. 医薬品及び動物用医薬品の製造及び販売
12. 発電事業及びその管理・運営並びに電気の売買に関する事業
13. 前各号に付帯する事業

### (本店の所在地)

第3条 当社は、本店を東京都中央区に置く。

### (機関)

第4条 当社は、株主総会及び取締役のほか、次の機関を置く。

1. 取締役会
2. 監査等委員会
3. 会計監査人

### (公告方法)

第5条 当社の公告方法は、電子公告とする。但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

## 第2章 株 式

(発行可能株式総数)

第6条 当社の発行可能株式総数は、1億2,000万株とする。

(自己株式の取得)

第7条 当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる。

(単元株式数)

第8条 当社の単元株式数は、100株とする。

(単元未満株式についての権利)

第9条 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

1. 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
2. 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
3. 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
4. 次条に定める請求をする権利

(単元未満株式の買増し)

第10条 当社の単元未満株式を有する株主は、株式取扱規程に定めるところにより、その有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる株式を売り渡すことを請求することができる。

(株主名簿管理人)

第11条 当社は、株主名簿管理人を置く。

- 2 株主名簿管理人及びその事務取扱場所は、取締役会の決議によって定め、これを公告する。
- 3 当社の株主名簿及び新株予約権原簿の作成並びに備置きその他の株主名簿及び新株予約権原簿に関する事務は、これを株主名簿管理人に委託し、当社においては取扱わない。

(株式取扱規程)

第12条 当社の株主権行使の手続その他株式に関する取扱いは、法令又は本定款のほか、取締役会において定める株式取扱規程による。

## 第3章 株主総会

### (株主総会の招集)

第13条 当会社の定時株主総会は、毎年6月にこれを招集し、臨時株主総会は、必要あるときに随時これを招集する。

### (定時株主総会の基準日)

第14条 当会社の定時株主総会の議決権の基準日は、毎年3月31日とする。

### (招集権者および議長)

第15条 株主総会は、取締役社長がこれを招集し、議長となる。

- 2 取締役社長に事故があるときは、取締役会において予め定めた順序に従い、他の取締役が株主総会を招集し、議長となる。

### (電子提供措置等)

第16条 当会社は、株主総会の招集に際し、株主総会参考書類等の内容である情報について、電子提供措置をとるものとする。

- 2 当会社は、電子提供措置をとる事項のうち法務省令で定めるものの全部又は一部について、議決権の基準日までに書面交付請求した株主に対して交付する書面に記載しないことができる。

### (株主総会の決議方法)

第17条 株主総会の決議は、法令又は本定款に別段の定めがある場合を除き、出席した議決権を行使することができる株主の議決権の過半数をもって行う。

- 2 会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う。

### (議決権の代理行使)

第18条 株主は、当会社の議決権を有する他の株主1名を代理人として、その議決権を行使することができる。

- 2 株主又は代理人は、株主総会ごとに代理権を証明する書面を当会社に提出しなければならない。

### (株主総会議事録)

第19条 株主総会における議事の経過の要領及びその結果並びにその他法令に定める事項については、これを議事録に記載又は記録する。

## 第4章 取締役及び取締役会

### (取締役の員数)

第20条 当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）は、8名以内とする。

- 2 当社の監査等委員である取締役は、4名以内とする。

### (取締役の選任)

第21条 取締役は、監査等委員である取締役とそれ以外の取締役とを区別して、株主総会において選任する。

- 2 取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う。
- 3 取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする。

### (取締役の任期)

第22条 取締役（監査等委員である取締役を除く。）の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとする。

- 2 監査等委員である取締役の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとする。
- 3 任期の満了前に退任した監査等委員である取締役の補欠として選任した監査等委員である取締役の任期は、退任した監査等委員である取締役の任期の満了する時までとする。
- 4 補欠の監査等委員である取締役の選任決議の効力は、当該選任のあった株主総会后、2年後の定時株主総会開始の時までとする。

### (代表取締役および役付取締役)

第23条 取締役会は、その決議によって取締役（監査等委員である取締役を除く。）の中から代表取締役を選定する。

- 2 取締役会は、その決議によって取締役（監査等委員である取締役を除く。）の中から取締役会長、取締役社長及び取締役副社長各1名を定めることができる。

### (取締役会の招集権者および議長)

第24条 取締役会は、法令に別段の定めある場合を除き、取締役社長がこれを招集し、議長となる。

- 2 取締役社長に事故があるときは、取締役会において予め定めた順序に従い、他の取締役が取締役会を招集し議長となる。

(取締役会招集の通知)

第25条 取締役会の招集通知は、会日の3日前までに各取締役に対して発する。但し、緊急の必要があるときは、この期間を短縮することができる。

- 2 取締役の全員の同意があるときは、招集の手続きを経ないで取締役会を開催することができる。

(取締役社長)

第26条 取締役社長は、取締役会の決議に基づき業務を統轄執行する。

- 2 取締役社長に事故があるときは、取締役会において予め定めた順序に従い、他の取締役がこれに代る。

(取締役会決議の省略)

第27条 当社は、会社法第370条の要件を充たしたときは、取締役会決議があったものとみなす。

(重要な業務執行の委任)

第28条 当社は、会社法第399条の13第6項の規定により、取締役会の決議によって重要な業務執行(同条第5項各号に掲げる事項を除く。)の決定の全部又は一部を取締役に委任することができる。

(取締役会議事録)

第29条 取締役会における議事の経過の要領及びその結果並びにその他法令に定める事項については、これを議事録に記載又は記録し、出席した取締役が記名捺印又は電子署名を行う。

(取締役会規程)

第30条 取締役会に関する事項は、法令又は本定款のほか、取締役会において定める取締役会規程による。

(取締役の報酬等)

第31条 取締役の報酬、賞与その他の職務執行の対価として当会社から受ける財産上の利益は、監査等委員である取締役とそれ以外の取締役とを区別して、株主総会の決議によって定める。

(取締役の責任免除)

第32条 当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役(取締役であったものを含む。)の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる。

- 2 当社は、会社法第427条第1項の規定により、取締役(業務執行取締役等であるものを除く。)との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結することができる。但し、当該契約に基づく責任の限度額は、法令が規定する額とする。

## 第5章 監査等委員会

(常勤監査等委員)

第33条 監査等委員会は、その決議によって常勤の監査等委員を選定することができる。

(監査等委員会招集の通知)

第34条 監査等委員会の招集通知は、会日の3日前までに各監査等委員に対して発する。但し、緊急の必要があるときは、この期間を短縮することができる。

- 2 監査等委員の全員の同意があるときは、招集の手続きを経ないで監査等委員会を開催することができる。

(監査等委員会議事録)

第35条 監査等委員会における議事の経過の要領及びその結果並びにその他法令に定める事項については、これを議事録に記載又は記録し、出席した監査等委員が記名捺印又は電子署名を行う。

(監査等委員会規則)

第36条 監査等委員会に関する事項は、法令又は本定款のほか、監査等委員会において定める監査等委員会規則による。

## 第6章 会計監査人の責任

(会計監査人の責任免除)

第37条 当社は、会社法第427条第1項の規定により、会計監査人との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結することができる。但し、当該契約に基づく責任の限度額は、法令が規定する額とする。

## 第7章 計 算

(事業年度)

第38条 当社の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間とする。

(剰余金の配当等の決定機関)

第39条 当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定めることができる。

(剰余金の配当の基準日)

第40条 当社の期末配当の基準日は、毎年3月31日とする。

- 2 当社の中間配当の基準日は、毎年9月30日とする。
- 3 前2項のほか、基準日を定めて剰余金の配当をすることができる。

(配当の除斥期間)

- 第41条 配当財産が金銭である場合は、その支払開始の日から満3年を経過してもなお受領されないときは、当会社はその支払の義務を免れる。
- 2 未払いの配当金には利息をつけない。

附則

- 第1条 当会社は、会社法第426条第1項の規定により、第119回定時株主総会において決議された定款一部変更の効力発生時以前の行為に関し、任務を怠ったことによる監査役（監査役であったものを含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる。

昭和15年12月28日改訂  
昭和17年12月28日改訂  
昭和19年12月27日改訂  
昭和21年10月24日改訂  
昭和22年 5月20日改訂  
昭和23年10月30日改訂  
昭和23年12月27日改訂  
昭和24年 9月28日改訂  
昭和25年 5月25日改訂  
昭和26年 5月26日改訂  
昭和26年11月22日改訂  
昭和29年 9月22日改訂  
昭和30年11月25日改訂  
昭和36年11月29日改訂

昭和37年 5月30日改訂  
昭和37年11月29日改訂  
昭和43年 5月29日改訂  
昭和45年 5月28日改訂  
昭和48年 3月 5日改訂  
昭和49年 5月29日改訂  
昭和50年 5月29日改訂  
昭和52年 6月28日改訂  
昭和55年 6月27日改訂  
昭和56年 6月26日改訂  
昭和57年 6月28日改訂  
昭和63年 6月29日改訂  
平成 3年 6月27日改訂  
平成 6年 6月29日改訂

平成14年 6月27日改訂  
平成15年 6月27日改訂  
平成16年 6月29日改訂  
平成17年 6月29日改訂  
平成18年 4月 1日改訂  
平成18年 6月29日改訂  
平成20年 6月27日改訂  
平成21年 6月26日改訂  
平成25年 6月27日改訂  
平成28年 6月29日改訂  
平成30年 6月28日改訂  
令和 3年10月 1日改訂  
令和 4年 6月29日改訂  
令和 8年 4月 1日改訂